

【設定理由】

毎日保育園で過ごす中で、特に関わりが多いのが水である。食事前などの手洗い・戸外での噴水・水遊び・色水あそび・プールなど1年を通して水に触れ合い、目にすることが多く、子ども達はそこで様々な学びを経験している

子ども達が水と関わる中で、何に気づき、何を発見しているのか、どんなことを学んでいるのか深く観察し、子ども達の好奇心や探求心、豊かな心情や思考力の芽生えを培っていきたいと考えたため

【活動のねらい】 水やお湯の心地よさを感じる

【活動の名】 温泉ごっこをする

【用意した環境】 お湯、タライ

【活動内容】 お湯をたらいに入れて、手や足を入れ感触を
味わいながら遊ぶ



< 子どもの姿 >

タライに足を入れ、気持ち良さそうに「温かくて気持ちいいね」「温泉って最高だね」と、友達同士顔を見合わせて笑いあっていた。

又、友だち同士で、「お風呂で10数えるんだ」「ママとお風呂にはいるの」「足がしわしわしわになっちゃうね」など、会話も楽しんでいた。

時間がたつと、お湯の温度が低くなっていくことに気づき、「冷たくなってきた」と言っていた。

< 保育者の振り返りと気づき >

以前、風が冷たい日に、子ども達が「お風呂に入りたい」と言っていたことから、タライにお湯を入れて手や足を温めた。温かいお湯が気持ちいいと感じた経験と家庭でのお風呂に入った経験が、今回の温泉ごっこにつながっている。自分が経験したことを言葉で表現したり、相手に伝えられるようになってきたりしていることから、会話も弾み遊びを楽しむことができたと考える。

又、40度前後のお湯が、子ども達の1番気持ちいい温度なようだが、お湯の温度だけでなく、これまでの経験や友だちとの会話なども影響しているのではないかと考える

【活動のねらい】 水に触れ楽しむ

【活動名】 色々な道具や用具を使って水遊びをする

【用意した環境】 透明の筒、タライ、ジョーロ

【活動内容】 透明な筒や、タライ、ジョーロなどを使って
水の流れや水の動きを探求した





< 子どもの姿 >

透明な筒を立てて、水を入れてみるが、下から水が出てしまう。友だちと話ながら、筒をななめにすると水が流れるところが、見えることに気づいた。

又、筒をつなげて長くすることで、より水が流れていく様子が見えることに気づき筒同志をつなげていた筒には、カップで水を入れ、筒の下に水車の玩具を置くと水の量で水車が回る早さが違うことに気づいていた。筒を斜めにする角度や、流す水の量など、友だちと話ながら楽しんで遊んでいた



< 保育者の振り返りと気づき >

前回の活動で砂山を作り、水を流した経験から、水の流れに興味をもち始めた。今回、透明の筒を用意したことで子どもたち同士どうしたら水が流れていくかを工夫していた。

筒を斜めにすることで水が流れることに気づき、また、水の量を変えることで流れる早さや勢いが違う事にも気がついている。

筒やタライを使い、子どもたち同士でアイデアを出し合い、試行錯誤しながら、自分達の遊びを発展させることができた。

さらに遊びが発展するよう、玩具や用具を整えたり、子ども同士で考えたことを見守ったりするなど、保育者として環境を整えることの大切さに気づいた。

【活動のねらい】 水の性質や温度に気づき、友達同士感じた事や

気づいた事を言葉で伝えあう

【活動名】 流れのある水（川）に触れて遊ぶ



【用意した環境】 流れのある水、川や噴水がある公園

【活動内容】 公園で水の流れを観察したり、触れたりしてさらに水を探求した



< 子どもの姿 >

葉っぱの船を作って川に流し、足をまたぎ、その間を水が流れていくのを見て「こっちから水が流れているんだよ」「どこに流れていくのかな」など水の流れを追いかけていた。葉っぱの船が流れる。様子を見て場所によって水が流れる速さが違うことに気づいていた。又、「この中は深いよ」「入っちゃおうか!」と言って、川の中に裸足で入ったことで 川の水は冷たいが大きな囲いの中に溜まっている水はぬるいことにも気が付く。

< 保育者の振り返りと気づき >

以前にも来たことのある公園で、水に触れたり保育者と一緒に葉っぱの船を作ったりして遊んでいた経験が、今回水への興味へとつながった。

水が流れる速さや水温に気づき、友だち同士で伝え合うなど言葉の表現も豊かになってきている。友だち同士で「こうしたらどうなるかな」と話しながら遊ぶことで探求心が広がってきている。この探求心が、水の性質や形状についてつながっていくと考える。

